

# 研究協力をお願い

昭和医科大学病院・昭和医科大学横浜市北部病院・昭和医科大学江東豊洲病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

中高年者の胸腰椎移行部に発生した脆弱性椎体骨折の偽関節発生に及ぼす胸郭可動性の影響

## 1. 研究の対象および研究対象期間

2015年1月1日から2024年12月31日に昭和医科大学病院・昭和医科大学横浜市北部病院・昭和医科大学江東豊洲病院・玄々堂君津病院・大田池上病院を受診した中高年者の患者さんで、胸腰椎移行部に生じた脆弱性椎体骨折の診断を受けた患者さんを対象としました。

## 2. 研究目的・方法

中高年者に生じる椎体骨折（圧迫骨折）は、保存治療（安静やコルセット、薬物療法）が基本ですが、時に保存治療に抵抗性を示し、早期手術が好ましいケースがあります。その手術が必要となるケースに影響する因子として「胸郭の動きの低下」があるのではないかと考えています。そこで本研究では、CT画像による胸郭の動きに影響する胸肋関節や肋横関節の変性の程度を調べ、偽関節になったものと、きちんと癒合し保存治療で完治したものを比較することとしました。

## 3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2027年4月1日まで

## 4. 研究に用いる試料・情報の種類

患者さんの基本情報（年齢、性別、身長、体重、既往歴）、診断名、入院の有無、装具使用の有無と装具の種類、骨粗鬆症治療の有無とその治療薬、画像所見（単純レントゲンとCT）

## 5. 外部への試料・情報の提供

本研究で取得した診療情報は研究責任者が個人の氏名、生年月日、電話番号、また診療情報等の個人を識別できる情報を削除し、研究用のIDを付与することで符号化します。符号化した診療情報は外部から切り離されたコンピューター内及びUSBメモリにパスワードを設定して保存されます。データの保存

